

米の品質低下を軽減するため こまめな水管理と病害虫防除の徹底を!!



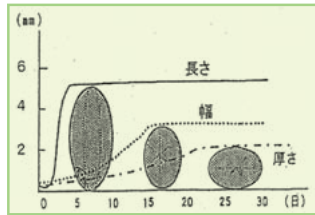
7月上旬の低温傾向により生育が心配されましたが、梅雨明け以降天候が良好であり、田植が早い水田では7月下旬に穂揃期となりました。出穂～収穫までの登熟期間が最も水の必要な時期となりますので、品質の良い米が収穫できるよう水管理には十分注意してください。

◎出穂後の水管理

- 出穂後、概ね2週間の夜温が2-3℃以上続く天候は白未熟粒の発生が助長されるので、気温や圃場条件に応じた飽水管理を徹底しましょう。
- 出穂期から成熟期までの登熟期は最も水分を必要とする時期であり、水管理を徹底することで高品質米につながります。

◎玄米の粒の形成

- 玄米の大きさは長さ、幅、厚さの順に成長していくため、早く落水した水田の米は最後の厚さが十分でなく、粒厚の薄い米になってしまいます。少なくとも出穂後30日までは落水しないようにしましょう。



◎飽水管理とは

- 足跡に水が残る程度になったら入水し、常に土が湿った状態を維持する水管理です。



◎飽水管理のポイント

- 田面に水分がなく乾いた状態のところでは、速やかにかん水する。
- 雨が降っても、足跡に水が溜まっていなければかん水する。
- 高温期の長期間の温水は「根ぐされ」を助長するので、田面が湿潤状態を維持する程度の間隔で飽水管理を行う。

◎台風等の対策について

- 台風の通過が予想される場合は、水田に十分にかん水する。
- 台風通過後はフェーン現象が起こるので、浅水管理にする。
- 稲がかん水して水没した場合は、速やかに落水する。

◎水稲斑点米カメムシ類防除の散布時期

1回目の防除

出穂後7～10日後
(穂ぞろい期)

2回目の防除

1回目防除の7～10日後
(斑点米カメムシ類の発生が多い場合)

※出穂時期が早くなったり、直播栽培の場合、出穂が遅くなりますので、散布時期を逃さないように計画して下さい。

主な防除薬剤

8月上～中旬に散布する
(出穂後に散布)

○スタークル粉剤DL ○キラップ粉剤DL・フロアブル等

○ダントツH粉剤DL・フロアブル・粒剤 ○トレボン粉剤DL等

雑草の除去

近年、雑草種子(クサネムの実)の混入により、等級落ちが多く見られます。刈り取り前に、ほ場から取り除き、刈り取りを実施してください。

来年のため・等級を落とさないためにも、速やかにほ場より、撤去してください。



斑点米カメムシの被害低減対策

- 早めに防除を実施する。
 - 休耕田などの管理を徹底する。
- 《出穂期～登熟期までは草刈作業厳禁》**